

- ① 新刊書の事前情報です。配本希望部数をご記入のうえ郵送またはFAXにてご連絡をお願い致します。  
希望部数を優先して配本しておりますので、必ずお申し込み下さい。
- ② 委託期間内返品可 配本後到着の注文書は注文扱いで出荷させて頂きますのでご了承下さい。
- ③ ★印の図書は特にご注目下さい。平積み頂ければ幸甚です。
- ④ 小局ホームページより、「新刊のご案内」最新号がダウンロードできます。併せてご利用下さい。

通巻 223 号

|       |    |   |   |
|-------|----|---|---|
| 帖合・番線 | 部数 | 法政大学出版局 2014年1月22日配本 定価3675円(本体3500円+税)<br>コーネル・ウェスト著/越智博美・松井優子・三浦玲一訳<br><b>民主主義の問題</b> 帝国主義との闘いに勝つこと<br>★★ 9.11の同時多発テロ事件以降、アメリカにおいて民主主義が、自由市場原理主義、攻撃的軍事攻勢、権威主義などによって危機に陥っている。本書は、デューイやローティといったプラグマティズムの系譜に連なる、神学者、哲学者、公民権活動家、そしてアーティストでもあるアフリカ系アメリカ知識人が、その危機の是正に何が必要なのかを、鋭い現状分析から「声を大にして」問いかける。<br>☞ 関連書:C.ウェスト『人種の問題』(新教出版社刊)、N.フレイザー『正義の秤』(小局刊)。       | 四六判上製・304頁<br>ISBN978-4-588-62209-0 C3030                     |
| 帖合・番線 | 部数 | 法政大学出版局 2014年1月下旬配本 定価3780円(本体3600円+税)<br>ウルリッヒ・ベック著/山本啓訳<br><b>世界リスク社会</b><br>★★ 二極的な世界が姿を消していくのと軸を一にして、敵対する世界から危険でリスクに満ちた世界へと移行する。本書は、 Chernobyl原発事故と同時に発表された自身のベストセラー『危険社会』発表後に寄せられた批判に応答しつつ、近代化とグローバル化を経て顕在化した新たなリスクのメカニズムを解明する。その議論は、3.11を経験する我々にとってもアクチュアルな議論となるだろう。<br>☞ 関連書:U.ベック『危険社会』、A.ホネット&N.フレイザー『正義の秤』(小局刊)。                                | 四六判上製・334頁<br>《叢書・ユニベルシタス1004》<br>ISBN978-4-588-01004-0 C1336 |
| 帖合・番線 | 部数 | 法政大学出版局 2014年1月下旬配本 定価3675円(本体3500円+税)<br>深井智朗編/竹渕香織ほか著/小柳敦史ほか訳<br><b>ティリッヒとフランクフルト学派</b> 亡命・神学・政治<br>★★ フランクフルト学派の成立には、神学者パウル・ティリッヒが多大な寄与を果たしていた。社会研究所の創設からアメリカ亡命後まで、ティリッヒと深い交流を続けた亡命知識人たち——アドルノやホルクハイマー、ブロッホ、フロム、マルクーゼなど——の大戦期・冷戦期の人間群像と、その思想的連帶や政治的対立を、貴重な新資料から浮き彫りにする。アドルノらの未邦訳テクストや書簡も収録。<br>☞ 《叢書・ユニベルシタス》既刊書:『アーレントとティリッヒ』(深井智朗ほか訳)、ティリッヒ著『諸学の体系』。 | 四六判上製・294頁<br>《叢書・ユニベルシタス1005》<br>ISBN978-4-588-01005-7 C1310 |
| 帖合・番線 | 部数 | 法政大学出版局 2014年1月17日配本 定価5040円(本体4800円+税)<br>ミルチャ・エリアーデ著/前野佳彦訳<br><b>加入礼・儀式・秘密結社</b> 神秘の誕生 加入礼の型についての試論<br>★★ エリアーデ最大のライフ・ワーク——死と加入礼の内的連関の解明。本書は、その未完の研究の核心をなす、未開社会の社会構成における加入礼の基本構造・形態・本質の宗教史的探究である。とくに、未開・東洋の〈内面性〉を顕在化させた加入礼的文化は、歴史時代には弱まり、今日ではほぼ消滅したことも、本書が提起する重要な問題であり、現代社会の〈成熟〉システムの欠如が逆照射される。<br>☞ M.エリアーデ既刊書:『聖と俗』(風間敏夫訳)、『小説 ムントウリヤサ通り』(直野敦訳)。      | 四六判上製・416頁<br>《叢書・ユニベルシタス1006》<br>ISBN978-4-588-01006-4 C1314 |
| 帖合・番線 | 部数 | 法政大学出版局 2014年1月21日配本 定価3045円(本体2900円+税)<br>ミルチャ・エリアーデ著/風間敏夫訳<br><b>聖と俗</b> 宗教的なるものの本質について 〈新装版〉<br>★★ 聖なるものは遠い人類の神話時代に発し、古代社会における人類の生存全般にわたって顕現した宗教的価値であり、やがて歴史時代の進展と共に衰退し、近代の工業社会に至ってほとんどその影を没しようとしているものである。本書は、この聖なるものの現象形態全般とその中に生きる人間の状況とを叙述し、現代社会に代表される俗なる世界との対比により、宗教的人間のあり方を問いかず。  | 四六判上製・284頁<br>《叢書・ユニベルシタス14》<br>ISBN978-4-588-09976-2 C1314   |
| 帖合・番線 | 部数 | 法政大学出版局 2014年1月21日配本 定価5250円(本体5000円+税)<br>ジル・ドゥルーズ著/工藤喜作・小柴康子・小谷晴勇訳<br><b>スピノザと表現の問題</b> 〈新装版〉<br>★★ スピノザの体系の起源と形成および理解のために、存在論的かつ認識論的な射程をもつ〈表現〉という概念の重要性に注目し、これを徹底的に追及することによって、その力動的な本質を明らかにする。スピノザを静的と見なす従来の解釈を逆転させ、現代のスピノザ・ルネサンスをリードした革新的研究。<br>☞ [哲学・思想]■復刊再委託■  | 四六判上製・460頁<br>《叢書・ユニベルシタス321》<br>ISBN978-4-588-09978-6 C1310  |

ご担当者様 氏名: [ ] 担当ジャンル: [ ] TEL: [ ] E-mail: [ ]

\*配本部数等で事前にご連絡する場合がございます。上欄にご担当者様氏名・TELをご記入下さい。

\*宛名ラベルの内容に変更がございましたらお知らせ下さい。次回以降訂正致します。

\*今後、新刊内容のデータ等をeメールにて配信させて頂く場合がございます。よろしければメールアドレスをご記入下さい。